

SÉBASTIEN OGIER



Red Bull Content Pool

№40 "Il Adagio"
540: адаптером
編集・発行：ラリージャパン事務局 発行日：2021年11月10日 Vol.05
560 без адаптера

Rally Japan Press



WRCをもっと知りたい!

2021年の公道最速王者バトルが決する

ELFYR EVANS



2021 WORLD RALLY CHAMPIONSHIP FINAL ROUND

頂上決戦

TOYOTA

Red Bull Content Pool

Title Partner: **FORUM8** Gold Partner: **GR Toyota Gazoo Racing** Silver Partner: **MS&AD** Bronze Partners: **ACT HOLDINGS** **EnergyPlus** **DENSO** **e+イプラス** **NKC** **NISHIO** **puma** Official Supporters & Official Supplier: **Asahi Kasei** **JTB** **TAMADIC** **ENEOS**

三井住友海上

WORLD RALLY CHAMPIONSHIP 2021 REPORT

Rally Finland 10/1-10/3 19ステージ(総距離:287.11km)
サービスパーク:ユバスキュラ

トヨタ陣営『ラリー・フィンランド』4連覇 タイトル争いはオジエvsエバンスの一騎討ちに



世界ラリー選手権 (WRC) シリーズのなかでも随一とうたわれるハイスピード・グラベルラリー『ラリー・フィンランド』が10月1日~10月3日に開催された。このコースはトヨタが得意としており、2017年から毎年勝利を重ねてきた大会だ(※1)。今回も4度目の制覇に向けて盤石かと思われていた。いざラリーが始まるとこれまでと異なる開催時期によるコンディションの変化が影響したのか、トヨタ勢はセバスチャン・オジエを始めとして、苦戦を強いられる様相に。一方でマンユファクチャーズタイトルでトヨタとの差を詰めたいヒュンダイ勢は

追撃の兆しを見せていた。そんななか、苦境を打破したのはエルフィン・エバンス(トヨタ)だった。エバンスはSS6~SS10で圧巻の5ステージ連続ウインを果たして首位に立つと、負けじと食らいつくオット・タナク(ヒュンダイ)を寄せ付けず、最終パワーステージでもフルポイントを獲得。今季2勝目を飾り、トヨタにラリー・フィンランド4連勝という栄光をもたらした。この結果によりタイトル争いはオジエとエバンスの2名に絞られ、同時にトヨタが3年連続でワールドチャンピオンを輩出することが決定した。

※1:2020年はコロナの影響で中止となっている。

Round 10

Pos	ドライバー	コ・ドライバー	チーム/カー
1	E.エバンス	S.マーティン	TOYOTA GAZOO RACING WORLD RALLY TEAM/ヤリスWRC
2	O.タナク	M.ヤルベオヤ	HYUNDAI SHELL MOBIS WORLD RALLY TEAM/i20 Coupé WRC
3	C.グリーン	P.ネーグル	HYUNDAI SHELL MOBIS WORLD RALLY TEAM/i20 Coupé WRC
4	E.ラッビ	J.フェルム	TOYOTA GAZOO RACING WORLD RALLY TEAM/ヤリスWRC
5	S.オジエ	J.イングラシア	TOYOTA GAZOO RACING WORLD RALLY TEAM/ヤリスWRC

※TOP5のみ

2、3位はヒュンダイのタナクとグリーンが表彰台を獲得。一方、選手権3位でタイトル争いに加わっていたティエリー・ヌービルはラジエーターの故障とエンジントラブルによりリタイアを喫し、タイトル争いから脱落した。また、選手権首位を守り続けているオジエも精彩を欠いた結果となったうえ、レース後にはヘルメットのストラップが正しく締められていなかったことが発覚し1分のタイムペナルティを加算されてしまった。



RallyRACC-Rally Spain 10/14-17 17ステージ(総距離:280.46km)
サービスパーク:サロウ

ヌービルが2連覇を達成 決戦は最終戦ラリー・モンツァへ

2019年以来、2年ぶりの開催となったラリー・スペインは、これまでとコースがやや変更され、オールターマックラリーとして開催された。序盤から圧倒的な速さ、強さを見せたのは2019年ラリー・スペインの覇者、ティエリー・ヌービル(ヒュンダイ)だ。選手権ランキングで3位につけているものの、前戦の結果によりタイトル争いから脱落してしまったヌービルだが、今大会ではSS4~SS10まで7ステージ連続ウインを達成し、ライバルたちを引き離しにかかる。一方ドライバーズタイトルの権利を持ち、なんとか首位のセバ

スチャン・オジエ(トヨタ)との差を詰めたいエルフィン・エバンス(トヨタ)も食らいついていくが、両者の差はデイ2終了時点で16.4秒まで広がってしまった。トップのヌービルは最終日もきっちり他車を押さえ込み、ラリー・スペイン2連覇、今シーズン2勝目を飾った。

第11戦を終えてランキング首位のオジエとエバンスの差は17ポイントとなり、タイトルの行方は最終戦で決着がつく。また、コ・ドライバー、マンユファクチャラー選手権も最終戦に持ち越されることとなった。

トヨタ優勢に変わりはないが、大逆転の可能性もくはない。また、選手権3位につけるヌービルを11ポイント差で追いつけるロバンペラの結果にも注目したい。ロバンペラが逆転を果たせばドライバーズタイトルのトップ3をトヨタ勢が占めることになる。



Red Bull Content Pool

Red Bull Content Pool

Round 11

Pos	ドライバー	コ・ドライバー	チーム/カー
1	T.ヌービル	M.イーダハ	HYUNDAI SHELL MOBIS WORLD RALLY TEAM/i20 Coupé WRC
2	E.エバンス	S.マーティン	TOYOTA GAZOO RACING WORLD RALLY TEAM/ヤリスWRC
3	D.ソルド	C.カレラ	HYUNDAI SHELL MOBIS WORLD RALLY TEAM/i20 Coupé WRC
4	S.オジエ	J.イングラシア	TOYOTA GAZOO RACING WORLD RALLY TEAM/ヤリスWRC
5	K.ロバンペラ	J.ハルットゥネン	TOYOTA GAZOO RACING WORLD RALLY TEAM/ヤリスWRC

※TOP5のみ

選手権ランキング

Pos	ドライバー	Pos	コ・ドライバー	Pos	マンユファクチャラー
1	S.オジエ	1	J.イングラシア	1	TOYOTA GAZOO RACING WRT
2	E.エバンス	2	S.マーティン	2	HYUNDAI SHELL MOBIS WORLD RALLY TEAM
3	T.ヌービル	3	M.イーダハ	3	M-SPORT FORD WORLD RALLY TEAM

※TOP3のみ

※ランキングは第11戦終了時点

今大会、ヌービルが優勝、3位にダニ・ソルドが入賞とヒュンダイ勢の奮闘もあり、マンユファクチャラー選手権は47ポイント差で最終決戦を迎える。



Red Bull Content Pool

SÉBASTIEN OGIER

TOYOTA

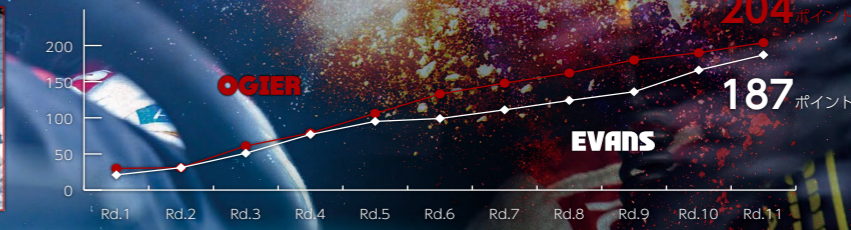
WRC最終戦直前 2021年シーズンをおさらい
公道最速の称号はどちらの手に

頂上決戦

2021年シーズンのWRCもいよいよ最終戦を迎える
タイトル争いは王者・オジエと2020年シーズン2位に甘んじたエバンスとの一騎打ちとなる
果たして栄光を手にするのはどちらか
そして、トヨタ悲願の3冠はいかに――



Red Bull Content Pool



オジエvsエバンス獲得ポイント推移

	Rd.1	Rd.2	Rd.3	Rd.4	Rd.5	Rd.6	Rd.7	Rd.8	Rd.9	Rd.10	Rd.11
オジエ	リザルト 1	20	1	3	1	1	4	5	3	5	4
	PSリザルト 1	5	1	3	4	4	3	2	3	6	4
	累計ポイント 30	31	61	79	106	133	148	162	180	190	204
エバンス	リザルト 2	5	2	1	2	10	5	4	6	1	2
	PSリザルト 3	6	4	5	12	3	4	5	2	1	3
	累計ポイント 21	31	51	77	95	99	111	124	136	166	187

※PS=パワーステージ



Red Bull Content Pool



TOYOTA



TOYOTA

2020年は選手権をリードしていたエバンスが最終戦で痛恨のデリタイヤを喫し、オジエがタイトルを獲得した。チャンピオンを獲り逃したというエバンスの屈辱は想像に難くなく、その悔しさを今こそ晴らさなければならない。今季の最終戦でエバンスが逆転タイトルを獲得するためには

2位以上もしくは3位+パワーステージ3位以上の獲得が最低条件となる。

一方、7度のタイトル獲得経験を持つオジエは、仮にエバンスがフルポイント(優勝+パワーステージ1位)を獲得しても、3位以上もしくは4位+パワーステージ4位以上もしくは5位+パワ-

ステージ2位以上でタイトルが確定する。オジエが王者の称号、そして8度目のタイトル獲得という有終の美を飾って一線を退くためには、エバンスに逆転されるわけにはいかない。失うものがない強さを持つエバンスと守り抜きたいオジエ――。果たして勝利の女神はどちらに微笑むのか。

ドライバーズランキング

Pos.	Driver	Point
1	セバスチャン・オジエ	204
2	エルフィン・エバンス	187
3	ティエリー・ヌービル	159
4	カッレ・ロバンペラ	140
5	オット・タナク	128
6	クレイグ・グリーン	76
7	勝田 貴元	68
8	ダニ・ソルド	63
9	ガス・グリーンズミス	60
10	アドリアン・フォルモ	42

※TOP10のみ

コ・ドライバーズランキング

Pos.	Co-Driver	Point
1	ジュリアン・イングラシア	204
2	スコット・マーティン	187
3	マルティン・イーダハ	159
4	ヨンネ・ハルットゥネン	140
5	マルティン・ヤルベオヤ	128
6	ポール・ネーグル	76
7	ダニエル・パリット	66
8	クリス・パターソン	54
9	レナード・ジャムール	36
10	カンディド・カレラ	32

※TOP10のみ

第11戦までのマンユファクチャラーズランキング

Pos.	Manufacturer	Point
1	TOYOTA GAZOO RACING WORLD RALLY TEAM	474
2	HYUNDAI SHELL MOBIS WORLD RALLY TEAM	427
3	M-SPORT FORD WORLD RALLY TEAM	185
4	HYUNDAI 2C COMPETITION	58

“フライング・フィン”の秘める可能性

最終戦でもうひとつ注視しておきたいのがランキング3位争いの行方だ。現在3位にはヒュンダイのティエリー・ヌービルがつけているが、それを追いつけるのが20歳の“フライング・フィン”こと、カッレ・ロバンペラである。両者の差は19ポイントで一見するとヌービル優勢だ。しかし、昨年初開催されたラリー・モンツァは想定外の降雪という悪天候に見舞われ、当時タイトルコンテNDERに名を連ねていたヌービルは、クラッシュを喫してリタイアを余儀なくされている。ヌービルにとっては少なからず負のイメージがある大会だろう。一方、今シーズン2勝を挙げ、急成長を見せているロバンペラは昨年のラリー・モンツァは5位入賞。昨年を上回る成績を収め、もしも19ポイント差をひっくり返すことができたなら、トヨタ勢のドライバーが『ドライバーズ選手権トップ3』を占めるという偉業が達成されることになる。



ティエリー・ヌービル VS カッレ・ロバンペラ
159ポイント VS 140ポイント

WRC NEWS

2022年シーズンのドライバーラインアップが明らかに



2021年シーズンの第10戦ラリー・フィンランドと第11戦ラリー・スペインの合間にトヨタ、ヒュンダイ、M-SPORTの3チームが、2022年シーズンのドライバーラインアップを発表した。今季でWRCのフルタイムドライバーを引退するセバスチャン・オジエの後任に注目が集まっていたが、2017~18年にトヨタチームの一員に名を連ねていたエサペッカ・ラッピが古巣に復帰することが明らかになっている(詳細は次号に掲載予定)。

2022年WRCの開催スケジュールが決定

国際自動車連盟 (FIA) は10月15日に世界モータースポーツ評議会 (WMSC) を開催し2022年のWRC開催スケジュールが明らかとなった。7月に開催されたWMSCでは第1戦モンテカルロと第2戦スウェーデンの日程のみが明らかとなり、他は開催国だけが発表されていた。今回の決議により2022年シーズンは全13戦で行われることが承認され、開催国には新たにニュージーランドが加わった。なお、第9戦は現時点でTBC(確認中)。最終戦はラリー・ジャパンが決定している。

2022年世界ラリー選手権カレンダー

Round	開催国	日程
Rd.1	モンテカルロ	1月20~23日
Rd.2	スウェーデン	2月24~27日
Rd.3	クロアチア	4月21~24日
Rd.4	ポルトガル	5月19~22日
Rd.5	イタリア	6月2~5日
Rd.6	ケニア	6月23~26日
Rd.7	エストニア	7月14~17日
Rd.8	フィンランド	8月4~7日
Rd.9	TBC	8月18~21日
Rd.10	ニュージーランド	9月8~11日
Rd.11	ニュージーランド	9月29日~10月2日
Rd.12	スペイン	10月20~23日
Rd.13	日本	11月10~13日

最新イベント情報

フォーラムエイト セントラルラリー2021 愛知&岐阜各地で開催!

フォーラムエイト セントラルラリー2021が2021年11月13日(土)~14日(日)の2日間、愛知県と岐阜県各地で開催される。サービスパークは豊田スタジアム、そして豊田市・岡崎市・新城市・設楽町・恵那市に7カ所設定された

SSで競技が行なわれる。エントリーは全日本ラリー参戦チームを中心に61台。サービスパークに隣接するエリアでは「とよたクルマフェスタ」が開かれ、開催市町やTOYOTA GAZOO Racing、パーツメーカー等のブース、そして我々フォーラムエイト・ラリージャパンもブースを展開し、公式SNSの登録キャンペーンやスペシャルグッズの販売等を行う予定なので、ぜひご来場を!

また、目玉となるのは一般向けの観戦エリアとして設定された「岡崎シティSS」だろう。2020年11月に同会場で開催された「アルペン・クラシック・カー・ラリー」やGRヤリスWRカーのデモンが記憶に新しいが、今年はさらにスケールアップしての再現となる。岡崎城の目の前を走るラリーカーの迫力をぜひご堪能いただきたい!



前回のセントラルラリーは2019年に開催され、TOYOTA GAZOO Racingの勝田貴元選手が優勝した!

フォーラムエイト セントラルラリー2021概要

- 競技会名称: フォーラムエイト セントラルラリー2021
- 競技開催日時: 2021年11月13日(土)~14日(日)
- 競技種目: スペシャルステージラリー
- SSコース概要: 舗装路(ターマック)
- SS距離および総走行距離: SS総距離 83.32km
総走行距離 584.19km
- 主催: トヨタ・モータースポーツ・クラブ (TMSC)
上州オートクラブ (JAC) NPO法人MOSCO



サービスパークとなる豊田スタジアムでは「とよたクルマフェスタ」が開催される。ラリージャパンブースも有り。また、GRヤリス ラリージャパン号はニューカラーとなって会場でお披露目予定です!

フォーラムエイト
セントラルラリーの
HPはこちら!



シーズン後半に見事巻き返し GRヤリスがデビューイヤーにタイトル獲得

全日本ラリー選手権は10月15~17日にM.C.S.C.ラリーハイランドマスタースターズ2021、10月30~31日に久万高原ラリーが開催され、2021年シーズンが幕を閉じた。最終戦までにJN2、JN4、JN5、JN6クラスのタイトルが決定。JN1、JN3クラスは最終戦まで熾烈なチャンピオン争いが繰り広げられた。特にJN1クラスはランキング上位の2台がわずか3ポイント差で最終戦を迎え、初日はシュコダ・ファビアR5を駆る福永修/齊田美早子組が1.8秒差でわずかにリード。しかし、最終日の2SSで勝田範彦/木村裕介組(トヨタGRヤリス)が逆転。GRヤリスの全日本ラリーデビュー初年度を見事チャンピオン獲得という形で締めくくってみせた。

各クラスチャンピオン

クラス	ドライバー/コ・ドライバー	車名
JN1	勝田範彦/木村裕介	トヨタ・GRヤリス
JN2	ヘイキ・コバライネン/北川紗衣	TOYOTA GT86 CS-R3
JN3	大竹直生/藤田めぐみ	トヨタ 86
JN4	西川真太郎/本橋貴司	スズキ・スイフトスポーツ
JN5	天野智之/井上裕紀子	トヨタ・ヴィッツ GR
JN6	吉原将大/石田裕一	トヨタ・ヤリス CVT

ラリージャパン オフィシャルグッズ セントラルラリー会場に登場!

サービスパークであり、スタート地点の豊田スタジアムと観戦ステージである岡崎市乙川河川敷の2会場に「フォーラムエイト・ラリージャパン2022 オフィシャルブース」が出展します。当日は、ラリージャパンオフィシャルグッズを携え皆様のお越しをお待ちしています! なお、セントラルラリー会場販売の続報については随時ツイッターにてお知らせします。

Twitterアカウント @as_web_shop
URL https://twitter.com/as_web_shop



Tシャツ ▲ホワイト

▼ブラック

タオル

撥水トートバッグ

多機能コットントートバッグ

ネックウォーマー

マスク 2色セット

4色ボールペン

▲レッド
ホワイト▶

オフィシャル
スタッフジャケット
レプリカ

▲モノロゴ
カーボンキーホルダー
▼カラーロゴ

ネックウォーマー

**多機能コットン
トートバッグ**

**マスク
2色セット**

4色ボールペン

次回Rally Japan Press Vol.06は
2021年12月10日に発行予定です
>>> otayori@rally-japan.jp